

令和元年度 相双普及区 林業普及活動実績

福島県相双農林事務所

I 概要

主要普及課題：森林整備の推進による森林の再生

東京電力福島第一原子力発電所事故により、旧避難地域における林業生産活動の停滞・停止、また、旧避難地域以外でも被ばくへの不安や樹皮の汚染等から林業生産活動が停滞している現状を踏まえ、森林の多面的機能の低下を防ぐため、森林の再生に向け森林整備の推進や特用林産物の生産再開指導等に取り組みました。

II 活動

1 ふくしま森林再生事業等による森林整備の推進

市町村毎に原発事故の影響度合いが異なり、森林の再生に対する考え方も異なることから、市町村毎の個別事情に配慮した計画となるよう指導した結果、双葉町、大熊町を除く10市町村で全体計画及び年度別計画を作成し、順次森林整備に取り組み始めており、令和元年度実績は266haとなっています。（他事業との合計実績は、H22:1,383ha→H23:310ha→R元:424haとなっています。）

また、令和2年度より当地区においては森林整備と除染を一体的に行う里山再生事業が実施されることから、対象市町村や林業事業者に対する技術指導が求められています。

一方、管内の復旧・復興事業に伴って慢性的な労働者不足が続いており、引き続き作業員の確保や一貫作業システムの普及が課題として残されています。



採材研修会



森林作業道作設研修会

2 特用林産物の生産再開指導

きのこ栽培や山菜等の特用林産物生産については、原発事故による生産者避難や放射性物質による生産資材汚染などにより、生産者が大きく減少し、それに伴い生産量も激減しました。

特用林産物の産地を維持していくため、検査体制の整備や生産者への生産再開のための指導と支援を行った結果、生産者、生産量は徐々に増加の傾向にあります。

また、新たな品目として、大熊町と飯舘村では菌床ホンシメジ（愛称：ふくふくしめじ）の本格的な生産に向け動き出しています。



菌床シイタケ



菌床ホンシメジ